

奈良・平安・鎌倉時代

奈良時代

726年(神亀3)

笠金村(宮廷万葉歌人)が聖武天皇の
供で江井島に来て詠んだ歌

江井島のできごと



行基が天平16年(744)6月初めに築いたという摂播五泊(せっぱんごはく)の1つで東から①河尻泊(かわじりのとまり・尼崎の神崎川河口付近)②大輪田泊(おおわだのとまり・大和田とも、兵庫港・和田岬辺り)③魚住泊(うおずみのとまり・名寸隅・なきすみ)④韓泊(からのとまり・的形)⑤檉生泊(むろおのとまり・室(むろ)とも、御津町室津)の五つ。

それぞれの泊までの現在の距離で測ると河尻泊～大輪田泊が22km、大輪田泊～魚住泊が30km、魚住泊～韓泊が21km、韓泊～檉生泊が22kmとなっており、大輪田泊と魚住泊の間は特に長い。

明石海峡は1日に満潮と干潮を二度繰り返す、潮の満ち引きで西流→東流→西流→東流と転流時を挟み、潮の流れが変わる。ここは潮流が速く、時速5.5～9Kmと潮流に乗ることで時間を節約、距離の克服が出来たと考えられる。従って他の泊の間と概ね同じような所要時間で航行が出来たと言える。

奈良時代に築かれたが、平安時代には瀬戸内の海運地として重要で瀬戸内海は平穏で静かな海ではあるが、狭い海峡であることから潮流の速さに加え、冬季には西風が強く荒波で海からの浸食が凄まじくすぐに磯を壊し、港の施設がたびたび壊された。何度も改修を行った。

泊付近は南北朝時代(1336年～1392年)になると江井ヶ島商人の活躍の基地なり、戦国時代(応仁の乱1467年から1568年の約1世紀)には港の近くに市が開かれるようになった。

日本のできごと

《奈良時代》

708年(和銅元)

- 和同開珎がつくられる

710年(和銅3)

- 都を平城京(奈良県)に移す

729～749年

魚住の泊



731年(天平3)

神領明石郡魚次浜(住吉大社神代記)

744年(天平16)

長楽寺・定善寺・延命寺 行基建立



〈長楽寺〉

天平16年(744)行基が魚住の泊を築いたときに平安を祈って地蔵尊を彫って安置したのが始まりで開祖。

残されている行基の位牌には、裏には、江井ヶ島の地名の由来が書かれている。

建永2年(1207)に法然上人によって浄土宗となった。室町時代中期の享徳2年(1453)に頒崇順公が再興して大いに栄えた。

明和年中(1764～72)に寺小屋が、明治4年(1871)11月には明石最初の郷学校がおかれた。郷学校は藩校 明治6年(1873)1月に学制により明石で最初の貫道小学校となった。



〈定善寺〉

浄土宗西山禅林寺派、山号は済鱗山、本尊は阿弥陀如来。

天平勝宝年間(749～757)に行基が寺を建てたのが始まりと言う。

鎌倉時代前期の建永2年(1207)に法然上人が讃岐に流された際、当寺も長楽寺と同じく浄土宗に改宗している。

当寺は「寺水」で知られ境内の井戸から出る水は良い水質でどんな旱魃でも枯れなかった。特に酒造りには絶好の水で江戸時代から酒水として使われてきた。



〈延命寺〉

浄土宗で山号は青柳山。本尊は地藏菩薩、天平12年(740)に行基が開山し、長坂寺(ちょうはんじ/廃寺)の塔頭寺院(たちゅうじいん)として魚住周辺の信仰の中心となっていた。

天正7年(1579)には秀吉の三木城攻めに巻き込まれて、全てが焼けた。現在の本堂は昭和10年(1935)に再建されたもの。地元では地藏菩薩様と呼び毎年、地藏盆の8月24日に開帳される。

平安時代

832年(天長9)

右大臣の清原真人が魚住船瀬の工事を上奏

1066年(治暦2)

西海氏、播州にはいり住吉大神宮下司職となり江井・八木・末光の三邑を賜った

鎌倉時代

1196年(建久7)

重源が魚住泊の修復の案を上奏

1207年(建永2)

法然上人により長楽寺・定善寺が浄土宗となる

749年(天平勝宝元年)

- 行基死亡

784年(延暦3)

- 万葉集完成

《平安時代》

794年(延暦13)

- 都を平安京(京都府)に移す

805年(延暦24)

- 最澄が唐より帰国天台宗を開く

806年(大同元)

- 空海が唐より帰国真言宗を開く

1167年(仁安2)

- 平氏政権の成立

1175年(安元元)

- 日宋貿易が行なわれる

1180年(治承4)

- 清盛が大輪田泊を整備

1185年(文治元)

- 壇の浦の戦い

《鎌倉時代》

1192年(建久3)

- 頼朝が政権を取る

1199年(正治元)

- 北条氏が実権をにぎる